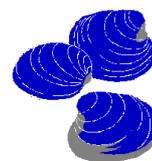


かわ こ
川つ湖通信 第4号



(本誌はホームページでもご覧いただけます。http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/naisuimen)

平成22年度春季 シジミ資源量調査結果

島根県水産技術センターでは平成 22 年 6 月 9・10 日に“調査船ごず”により宍道湖のヤマトシジミ資源量調査を実施しました。

春季資源量調査結果

宍道湖におけるヤマトシジミ全体の資源量を計算したところ、949 億個、41,429 トンと算出され、前年春季（平成 21 年 6 月：1,279 億個・39,930 トン）に比べ、資源個体数は下回りましたが、資源重量は上回っています（表 1）。

宍道湖におけるヤマトシジミ全体の資源量は平成 18 年、19 年にへい死があり減少していましたが、その後は僅かながら増加の傾向にあります（図 1）。

表 1 平成 22 年度春季ヤマトシジミ資源量調査結果

深度	面積 (km ²)	標本数	個体数密度 (個/m ²)	推定個体数 (億個)	重量密度 (g/m ²)	推定重量 (トン)
0～2.0m	7.7	33	3,420	263	1,721	13,235
2.1～3.0m	6.2	33	5,616	347	2,256	13,939
3.1～3.5m	4.8	32	4,678	223	1,897	9,031
3.6～4.0m	5.3	28	2,183	116	980	5,224
計	24.0	126	3,961	949	1,729	41,429

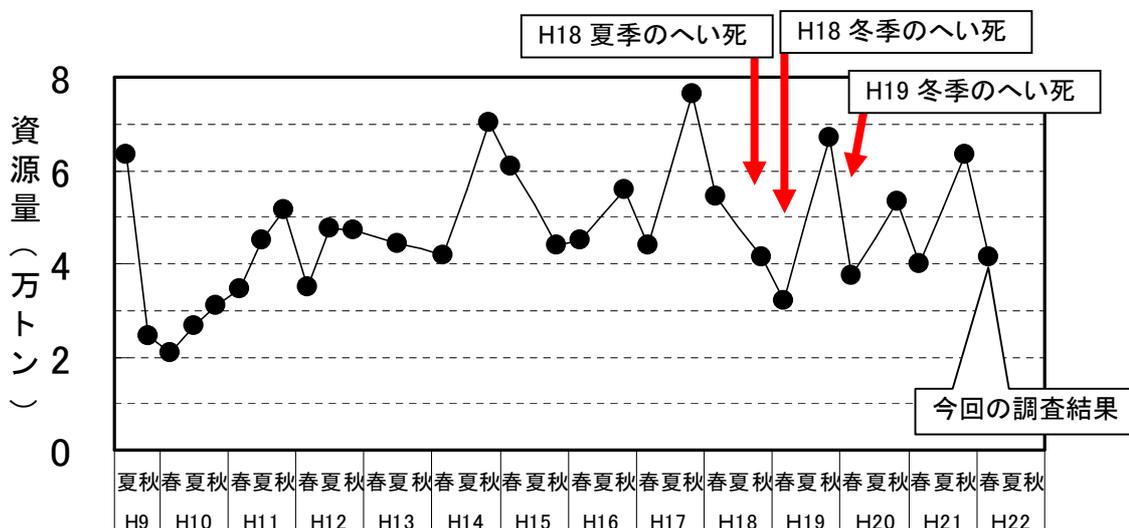


図1 宍道湖におけるヤマトシジミ資源量の変化

図2に平成21年春季と平成22年春季のヤマトシジミ資源の殻長組成を示します。殻長17mm以上のヤマトシジミが漁獲対象資源です。

ヤマトシジミの全体の資源個体数は1,279億個(H21)から949億個(H22)と減少しており、特に殻長5mm前後の小型個体の減少が目立ちます。このサイズの個体は平成21年生まれの個体となりますが、漁協が毎年行っている天然採苗でも昨年はここ数年で最低の採取量となっています。平成21年は7月の大雨により湖内全体の塩分濃度が低下し、その状態が9月上旬まで続きましたが、そのことが幼生の発生等に影響を与えたものと思われます。

一方、漁獲対象資源については46億個から60億個と増加の傾向にあります。図3に漁獲対象資源の資源重量の動向を示します。平成16年春以降、漁獲対象資源は2万トン程度で推移していましたが、平成18年の秋に1万トン、平成19年の春に5,800トンにまで減少しました。それ以降は僅かずつですが増加の傾向が見られ平成22年春の漁獲対象資源は約12,700トンとなっています。

これから秋にかけ殻長11mm以上の個体が成長とともに順次漁獲対象として加入してくるものと思われ、来年度以降に漁獲対象となる殻長5mm前後の個体の減少が見られることから漁獲規制の継続は必要と思われ。

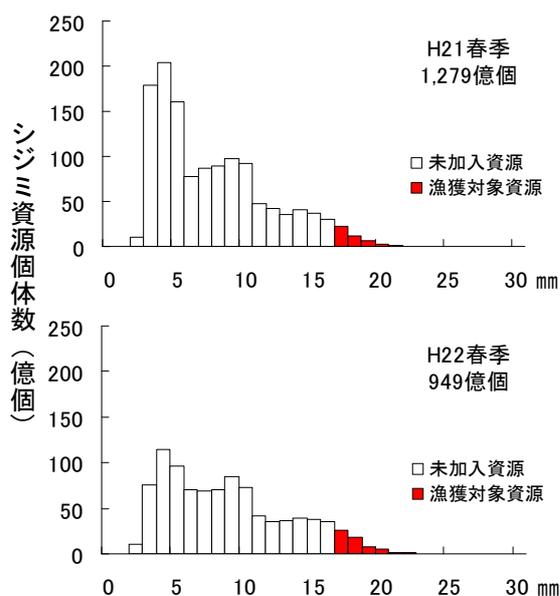


図2 殻長ごとの個体数組成

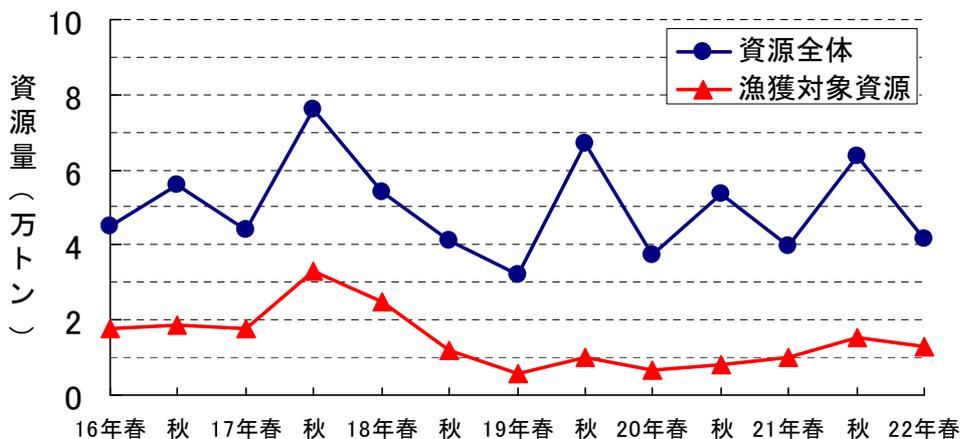


図3 漁獲対象資源重量の動向

- ◎ 水産技術センター内水面浅海部では漁業関係者や県民の皆様からの情報をお待ちしています。珍しい魚が捕れたり、川や湖で変わった現象などありましたら、是非下記までご連絡ください。
- ◎ 本誌はカラーの写真や図を使用しています。FAXでご覧の方は是非インターネットで内水面グループが運営するホームページ「島根の川と湖」にアクセスして本誌をカラーでご覧ください。

島根県水産技術センター 内水面浅海部 内水面グループ
 住所：島根県出雲市園町沖の島 1659-1
 TEL：0853-63-5101 FAX：0853-63-5108
 ホームページ： <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/naisuimen/>
 E-mail： suigi-naisuimen@pref.shimane.lg.jp